

特選  
2010  
金融担当  
大臣賞

「金融と経済の明日」第8回高校生小論文コンクール

## これからの消費者を育てるために


東京都・中央大学高等学校 3年 安永 望美

最近はお店でレジスターの開く音よりも短い「ピッ」という電子音を聞くことが多くなった。電子マネーでの支払いである。手軽に大人だけではなく子供も使うことができる電子マネーだが、この電子マネーの登場によって私たちはお金との付き合い方をよく考えるべき時を迎えているのだ。

私は小・中学校時代おこづかいというものを貰<sup>もら</sup>っていなかった。欲しいものができた時は親に交渉をもちかけて許可された時のみ、そのものを買ってもらっていたのだ。そのため、自らお金に触れる機会はあまりなく、お金というものにあまり実感がわかなかった。しかし高校に入りおこづかいを貰<sup>もら</sup>うようになってからその意識が変わった。お金は貴重なものであり、無限にあるものではないということを感じたのである。小さい頃<sup>ころ</sup>におつかいをしたらお駄賃<sup>こつち</sup>をくれたという人や、バイト経験のある人にとってはより感じられることではないだろうか。

なぜ私たちはお金の大切さを理解できるのだろうか。それは私たちが普段目にするお金にはお札であったり硬貨であったりというように形があることが大きな理由ではないだろうかと思う。自分の手の中にある例えば1,000円札が500円玉になり100円玉になり……というようにお金を使うことによって目に見える大きさも小さくなっていく。この実際に見えるということで私たちは小さな頃からお金の大切さを感じることができたのである。

しかし、電子マネーの登場によりお金を体で感じるものが難しくなってしまうのだ。なぜならカードであったり携帯電話に内蔵されている電子マネーの場合、それが目に見えて少なくなるということは有り得ない。お金に対してある程度理解のある大人ならばそのように視覚<sup>とら</sup>えられなくともそこまで問題はないだろう。しかしまだお金についての知識が少ない子供にとっては危険な代物になってしまうことだろう。なぜなら電子マネーは意識していなければ金額が減っていることを感じ取りにくく、子供にとっては「欲しいものが手に入る便利な



カード」という印象しか与えない可能性が高いからだ。そうした考えをもった子供たちが大人になった時、いったい何がおこるだろうか。例えば電子マネーを使うのと同じような気持ちでクレジットカードをもつことになったらその人は限度を考えず買い物をしてしまうかもしれない。何とかなるだろうといくつもの消費者金融会社からお金を借り多重債務をかかえることになるかもしれない。こうした事態を防ぎ、より良い消費者を生むためには子供のうちからしっかりと教育をすることが必要なのである。

しかし学校でお金の大切さや使い方に関する授業というのはあまり行われていない。実際にある仕事に関し体験をするような授業ならば行われることがそれなりにあるようだが期間は短期間であり、なおかつお金との体験には結びつけづらい。このような状況を変えるためにこんなことを実践してみてもどうだろうか。自分たちで農作物を育て、文化祭などでその農作物を販売するのだ。もちろん収益はほとんどないだろうがそれでも構わないのだ。農作物を育てるには毎日の手入れが大切でその労力はかなり必要とされる。その労力と収益が釣り合っていないように感じるからこそ重要だ。ほんの少しのお金でさえ手にすることはこんなにも難しいのか、と生徒たちに実感させるためである。他にも、フリーマーケットを開くなど学校という場でもっとお金について考える機会があってもよいと思う。

家でお金について考える機会を与えることももちろん大切である。これは私の知り合いが実際に行っていたことであるのだが、その家では毎週土曜日が小学生の娘の朝食当番日と決められている。しかもそれはただの朝食当番ではなくて娘が家の中でお店を開いているというように感じさせるものなのだ。あらかじめ親が決めたメニューとその値段がリビングにはられていて娘はその中から注文を聞き料金を貰っている。そのお金はそのまま彼女のおこづかいになるのだが、私はこの話を聞いた時とても感銘を受けた。彼女にとってお金というものは「親がくれるもの」ではなくて「自分で手に入れるもの」であるのだ。この意識を小学生の頃からもつことができるということは正しい消費者としてのあり方に大きく一歩を進めたことになるだろう。

このようにしてお金の大切さを学ぶことができれば、もし電子マネーやクレジットカードのみの生活を送ることになったとしても無茶な使い方をしてしまう

ことはないだろう。また、お金の重要性が理解できるようになれば、そのお金を使って手に入れるものの大切さも分かるようになり「万引き」や「強盗」というような犯罪も減少するのではないだろうか。

「お金は大切なものである」ということは多くの人が概念としては分かっていることだろう。しかしそれを分かった上で行動に移している人はあまり多くないのではないだろうか。次世代の消費者を育てるためにも私たちは行動しなければならない。電子マネーによりお金の姿が見えなくなったことでその行動の必要性は高まったのだ。目には見えなくともそこにある努力やかけられた時間を私たちは決して忘れてはいけない。そして他の誰にも忘れさせてはいけないのである。

